

令和6年度第1回 岡崎市こども発達センター関係機関連絡会議 会議録

日時	令和6年7月 23 日(火) 14:00～15:30
会場	こども発達センター 体育館棟 研修室
出席者 (敬称略)	岸本美紀、花田直樹、辻健史、山本司将、世古裕子、野崎敬子、平岩ふみよ、 内藤智宣、塩谷典子、小山岳彦 計 10名
欠席者 (敬称略)	大賀肇
傍聴人	0名
事務局	健康増進課:青山課長、保育課:堤谷課長、障がい福祉課:平松副課長 こども発達センター:早川センター長 こども発達医療センター:福本所長 こども発達支援センター:加藤所長 こども発達相談センター:大須賀所長、藤野、石原、小林、林、小早川 ※幸田町福祉課 2名(横田課長、石野主任主査)
議題	早期発達支援システム評価指標による令和5年度の評価
内容	挨拶 (発達センター長 早川) 2017 年に開設し、本年度で8年目。最初の5年目は安定稼働に向けてやってきた。6年目から改善と変革を意識して運営している。 私は、今年度で発達センターの従事が最後の年になる。準備段階から、ほぼ 10 年間センター運営に携わってきたが、最後に出来ることがあったら取り組みたいので、前向きな御意見をいただきたい。 出席者の紹介(各委員からの自己紹介) 岡崎市医師会精神医会 大賀委員は急遽予定が入り、欠席との連絡をいただいた。 委員に続いて事務局の自己紹介 なお、今日の会議には見学のため幸田町福祉課のかたにも御参加いただいている。 議題 早期発達支援システム評価指標による令和5年度の評価 ・資料 1 「早期発達システムの目標及び指標」について 事務局(健康増進課 青山)から説明 【内藤委員】レインボーの会と、2歳児再健康診査という名称を使い分けているか？ 保護者と話す時に、「レインボーの会に行ったんだね」というと分からず、「2歳児健診」というと伝わることもある。レインボーの会や、にこにこきっず1という名前の方がかわいい気もするが、保護者からすると、2歳児健診の方がずっと入るのかもしれない。

【健康増進課 青山】使い分けはしていない。2歳児再健診は、1歳6か月児健診の再健診という形になる。再健診のほうが馴染みやすいのかもしれない。一度検討したい。

【内藤委員】レインボーの会でスクリーニングをしても、にこにこきっず1に行かないという保護者が多い。特別な会と思われ、壁が高いのかもしれない。次につながってもらうのが目的だと思うので、にこにこきっず1にもつながってもらえるとよい。

【健康増進課 青山】にこにこきっず1を案内するときに、壁にならないように考えていかないとけないと思う。ご意見を持ち帰らせていただく。

【平岩委員】レインボーの会からにこにこきっず1に紹介するかたの中で、保護者支援を目的とした対象があるということだが、どういう保護者が対象になるのか？

【健康増進課 青山】保護者の心配が強いがた。スクリーニングでは問題がなくても、毎日接している保護者が心配しているかたの中には、後々お子さんに発達の問題が出るかたもいるので、訴えが大きいかたにもご案内させていただいている。

【発達センター 早川】最初の子の観点でスクリーニングしていたが、今は保護者の心配が強いがたも意識して受けるように変化してきている。

・資料2「こども発達相談センターの目標及び指標」について

事務局(相談センター 石原)から説明

【辻委員】基礎資料でみると、受給者証の発行数が年々増加している。相談機関への相談件数等は増えていないが、なぜか。全国的にも同様の傾向があるのか。市内の受けられる施設が増えているから受給者証の発行数が増えているのか。基準が緩められているのか。

【障がい福祉課 平松】基準は緩めてはいない。

【医療センター 福本】幼児期に通える児童発達支援が民間で増えていると感じる。

【世古委員】受給者証の発行数等については障がい福祉課が把握していると思うが、受け皿の点については、児童発達支援事業所が岡崎市では増えており、希望されるかたが増えていると思う。支給決定には受診が必要なので、相談支援としては、受診の有無を必ず確認している状況。

【岸本委員】園巡回について、令和6年度から私立幼稚園の巡回支援を全園としたようだが、ニーズがあったのか。全園に対象になる子が在籍しているのか。また、訪問支援は、同意の得られない保護者もいるので難しいこともあるが、直接園とつながる機会があるとよいという感想を持った。

【相談センター 林】令和5年度は希望園に伺い、令和6年度全園に伺うことにしたのは、相談センターの情報が多岐にわたっていたり、変わっていくこともあるため、タイムリーに毎年全園にお伝えしたいと思ったため。ほとんどの園で『発達相談センターが回ってくる』というお知らせの文章を掲示・配布してくれており、私立幼稚園にも伺いやすくなったという現状がある。全園に発達センターの対象となる子はいらっしゃる

	ると思うし、今後どこにでも入園する可能性があるということで、全園に巡回している。 訪問支援については保護者の同意を取ることが難しく実施の難しさはあるが、支援者支援の一環で、匿名による研修型の事例検討という形での訪問支援を行っている。そちらを希望される園のニーズも増えている。 【発達センター 早川】手上げしてくれるところはつながれてよいが、手上げしてこない所こそぜひ情報共有していきたいと思う。訪問支援は、子の保育教育の充実に向け、協力していけたらと思う。 ・資料3「こども発達医療センターの目標及び指標」について 事務局(医療センター 福本)から説明 【花田委員】1歳児で医療センターにつながるかたはどういうきっかけでつながるのか。 【医療センター 福本】生まれ月によるが、2歳になっている子が多い。保護者の心配が強いのかが多い。令和3年度からレインボーの会が始まり、開始前の令和2年度に比べ、受診月齢は上がり1歳児でなく、2歳児からつながる子が増えたと感じる。2歳児で、就園前に園で指摘を受けたこと等をきっかけに医療センターにかかる子はい。 【花田委員】1歳児で医療センターに行くような子の療育はどのような流れになることが多いのか。 【医療センター 福本】かかりつけ医から紹介された1歳児の療育については、保護者の心配の強いのかたは、すでに親子療育につながっていたり、予定している子もいるので、医療センターとしては医療の評価をしている。医療センターでの訓練を始めるのは3歳以降のかたが多い。 【発達センター 早川】近隣では初診待ちが半年から2年という中で、医療センターは発足前から3か月以内に初診を回そうということでやってきたが、ニーズと年齢層の変化を見て、どのくらいキャパを確保できるかなど、引き続き検証していきたい。 ・資料4「こども発達支援センターの目標及び指標」について 事務局(支援センター 加藤)から説明 【発達センター 早川】医ケア児の経管が抜けたのはすごいですね。一生懸命支援した成果なのか、保護者の協力もしていただいたからなのか？ 【支援センター 加藤】保護者も協力してくれたが、看護師がついて食事のフォローをしたり、管理栄養士、言語聴覚士が協力し支援を行った。対象児もやりとりができるので、励ましなどで摂れるようになったが、1年かかった。ただ、今の段階でペースト状の食事なので、今後食形態をアップできたら、地域園への移行も視野に入れて検討したい。
--	---

・その他

【塩谷委員】令和元年度からの療育手帳の交付件数を資料として出した。毎年150件程度で推移している。一番多いのはC判定、次にB判定、A判定となる。近隣市含めでの傾向としては、3歳が一番多い。3歳の誕生日を待って取得するかが多く、半年前から予約を入れられるかたも多い。次に4、5、6歳となる。次いで多くなるのが14歳、12歳とか中学生の年齢になってくる。3、4、5歳で手帳取得されないかたは、そのまま小学校で療育手帳なしで就学するが、中学で今後の進路を考えたときに療育手帳の取得を検討されるのかな、と思う。

【発達センター 早川】令和5年度はA判定が多いが、たまたまか。

【塩谷委員】コロナ禍になった期間、手帳の判定を受けずにここまで来たかたもいるのかもしれない。

【発達センター 早川】今後も注視し、経年的にデータを出していただければと思う。

【塩谷委員】言葉がゆっくりで、言葉の発達を促す関わり方が重要と思う子がいるのに対し、保護者がスマホに任せて、お子さんへの積極的な働きかけが弱いかたもいる。その子の発達段階がどこにあり、保護者に対し、どういう関わり方が必要かという助言が必要と感じている。それを、発達センターでもやっていただいているのかと思う。

レインボーの会から、にこにこきっず1の方針となるかたの中には、保護者支援を目的とした対象を含むとの説明があったが、不安感とか心配の強い保護者に寄り添う働きかけを目的としているか、特性の理解を深める働きかけをしているのか？

【健康増進課 青山】保護者に発達の段階を理解してもらう所と、保護者がどのようなアプローチをすることが必要なのかも含め支援をしていく。心配がどこから来ているのか把握しながら、一つ一つ保護者と確認しながら進めていく。

【塩谷委員】にこにこきっず1では、発達検査もしているのか。

【健康増進課 青山】発達検査は実施しない。

【発達センター 早川】お子さんに特性がある場合は、保護者にも特性がある時がある。その中で理解してもらうのは限界もあるので、必要な場合には医療にもつなげていく流れになっている。

【学校指導課 小山】そよかぜ相談に相談があったのは、昨年度260名程度。その中のほとんどが新学齢児になるが、教育支援委員会で就学先を検討しており、620～630名の進路を判断していく。通常級が70%、特別支援学級が25～30%、特別支援学校が5%くらいになる。年々支援の必要な子が増えており、支援学級に入る子が増えている。同時に通常級に行く子も増えており、その中で支援が必要な子は増えている。支援学級の在籍数は小中学校含めて1200名弱、だいたい4%になる。

先生方、保護者への支援の仕方の理解をどう進めていくかが課題。文科省の通知で、先生が20代のうちに特別支援学級を経験させるという方針が示されている。教員として経験が浅い段階で交代で特別支援学級に入ってきているという状況であ

	り、研修等をしながら進めているが、先生が適切な支援をするのに時間がかかる状況もある。 みどりファイルについて、今年度から運用を変えており、就学前から就労以降も使えるようなものを作るように、力を入れている。 【発達センター 早川】発達センターでは未就学児を対象にしているが、その後も展開していかないといけないと考えている。 【山本委員】歯科分野に関しては、歯科健診と、保護者への講演を年1回やっている。歯科を受診しようと思う時に、支援の必要な子が通常の歯科医院に行って受け入れてもらえるかという不安をもっている保護者が多い。このため、木曜午後に岡崎歯科総合センターで障がい者歯科診療の枠を設けている。ただ、受け入れられる数も限られているため、この他にも岡崎幸田で、障害のあるかたを受け入れられる歯科医院がいくつかある。岡崎歯科医師会のホームページに載せていく準備をしているので、活用していただきたい。 講演会に来られるかたは意識が高い。できればそこには顔を出さない、子との向き合い方が積極的でない保護者のかたに支援、手助けができればと思うが、なかなかうまくいかないのが、こちらのセンターや関係の方々にも、歯科の不安があればそうした窓口があるので周知していただきたい。 【世古委員】相談支援を行っている中で、経緯を丁寧に聞き取るようにしているが、療育利用の始まりと終わりに課題を感じている。療育を受けられる事業所も増えており、様々な特色があるため、療育の始まりの時期に、お子さんにどんな支援が必要か丁寧に聞き取るようにしている。今後も皆様の力を借りて、保護者が不安なく、どのような支援が必要なのか理解し、療育につながるようになっていくとよいと思う。また療育利用の終了においては、保護者がお子さんの成長を実感した上で卒業できるように関係機関と共有しながら支援していきたい。 【野崎委員】NPO法人きららでは、今年の5月から大樹寺学区で、つどいの広場おひさまを開設している。火・木・金曜に朝9時から15時まで自由に遊んでいただける。常時 30 組前後のかたが利用しており、その中の4割くらいが支援の必要な子が利用している。 【内藤委員】早期発見のシステムと、それに起因する所の部分でいろんな情報が保育園にも届きやすくなっていると感じている。巡回で発達相談センターのかたが来てアドバイス、助言をいただき、現場としては園の方で気になる子でも対応できるようになってきた。ここ5年くらいで園も手探りでなく、確信をもって対応できるようになってきた。だからこそもっとと言う所もあるので、職員会議等で議論を深めながら、職員から質問があったら、相談センターに相談していきたい。 【平岩委員】保護者もいろんな知識、支援を受け、前を向いている。発達センターの力
--	---

	が強いと思う。ただ、この次に難しいと思うのは、インクルージョンは進んでいないと感じることである。その子らしくというのは、どのくらい受け止めてもらえるのか、その子らしいというのはどう理解していくとよいのかをいつも迷っている。 幼児期から小学生の間は障害のある子も定型発達をしている子も分けられないで、いろんな子がいることを体験的に学んでいうことが皆必要なことだろうと思う。どうしたらよいのかと考えながら接していかないといけないと思う。いろんな子と交流できる環境が必要と思う。これまで少しずつ進んでいることが、今後後退しないようにしていただきたい。 【岸本委員】発達センターが出来た頃と比べ、保護者が困り感を持った子がどこにも相談できない状況が無くなり、素晴らしいと思う。その中で、本学で地域における貢献がどこまでできているかと思う所がある。そうしたお子さんを支える保育者、支援者を本学でも多く育成したいが、少子化等もあり人材を増やすことが難しい状況があるが、岡崎市に貢献できる保育者を育てていきたい。 【花田委員】発達センターが出来る前に比べ、岡崎市は発達につまずきのある子の行き場ができ、小児科医会として感謝している。初診を3か月以内で診てもらえるのは素晴らしい成果を上げていると思う。先日、5歳児健診について保健所での話し合いがあった。発達フォロー協力医として5歳児健診がなくても形が出来ていると感じながらもさらなる岡崎流ができるとよいと思った。他の市町村は受け皿が無いことが一番のネックとなっている。岡崎は発達フォロー協力医が受け皿になるようにはしているが、医師によって温度差があるので、小児科医会としては、そのあたりがもう少し役に立つようにありたいと思っている。 【発達センター 早川】受給者証の更新では、医師の判断が必要となっているので、先生方には、引き続きお力を借していただきたい。 【辻委員】親の都合で三河青い鳥医療療育センターまで繋がるができないかたも少なからずいる。家庭背景的にも難しかったりして、受け皿の体制が進んでも、そこに届きにくい人達がいる。そこにも手が届くとよいと思う。 【発達センター 早川】発達医療センターが初診を3か月以内で対応できるのは、ひとえに三河青い鳥医療療育センターのおかげであり、知的障害の重い子は三河青い鳥医療療育センターで診ていただいているからである。大変感謝している。医療連携も引き続きお願いしたい。 【発達センター 早川】本日の議題については以上で終了する。 ～終了～
事務局 連絡事項	令和6年度 開催予定 第2回 令和7年1月 21 日(火)午後2時～